

月報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

三重県漁業協同組合連合会

第 76 回通常総会

—6 月 24 日(火)-水産会館—



6 月 24 日(火)、三重県水産会館において、三重県漁業協同組合連合会の第 76 回通常総会が開催された。

冒頭に濱口会長は「今年の 11 月には第 44 回全国豊かな海づくり大会が開催され、水産業の持続的な発展と豊かな海を次世代に引き継ぐ取組みを、行政と一丸となって推進していく重要な大会であり、三重県の多彩な海産物の魅力を全国に広く発信する機会でもある。また、5 月には気象庁から黒潮大蛇行に終息の兆しがみられると発表があり、海況にどのような影響を及ぼすか不透明であるが、本会は、引き続き、豊かな海を取り戻す取組みを、県、市町、関係機関と共に推進する」と挨拶した。

その後議事では、2024 年度事業報告や 2025 年度事業計画などの議案が諮られ、全て原案通り承認された。

漁業士会・漁青連合同総会

—6 月 28 日(土)-松阪商工会議所—



6 月 28 日(土)、松阪商工会議所において、漁業士会と漁青連による合同総会が開催された。

漁青連代表として挨拶した中村会長は「近年の水産業界は漁業資材・養殖用飼料の高値安定に加え、米国の関税引き上げによる輸出への影響、さらには高齢化・担い手不足など水産業の危機だと感じている。漁青連では、環境保全活動、人材育成の他、他業種との連携を行い水産業界を担っていくことが重要だと考えている」と述べた。

両団体とも、2024 年度の事業報告や、2025 年度の事業計画など全 3 議案について諮り、全て原案通り承認された。

第 73 回浅海増殖研究発表全国大会 —6 月 4 日(水)–兵庫・神戸市—



6 月 4 日(水)、神戸市産業振興センターにて、第 73 回浅海増殖研究発表大会が行われた。

本大会は、全国の海苔生産者を始めとする、浅海増殖業に関わる多くの漁業関係者が年に一度の全国から集まる。(1951 年より～)

近年、海苔の生産量は、高水温・栄養塩不足・食害などの影響で減少傾向にある。本研究発表大会は、漁業者自らが普段の作業を通じて問題点や改善点などの研究課題を見つけ、青年部等の集団活動で研究に取り組んだ成果を発表する。

今回、全国から 5 題の研究成果が発表され、神戸市漁協「漁業と地域の連携で築く持続的な未来～サステナブルな経営と地域共生の実践～」が大会最優秀賞である、農林水産大臣賞を受賞した。

また、三重県からは前回で見事大会最優秀賞を受賞した、伊曽島漁協が開会宣言及び大会旗返還を行った。



大会旗返還を行う津坂氏

県内一斉海浜清掃(中央会場) —7 月 5 日(土)–白塚海岸—

7 月 5 日(土)、白塚海岸にて県内一斉海浜清掃(中央会場)が行われた。

本活動は、「きれいな海」、「豊かな海」を守るため、7 月の海の日を中心として毎年実施している。

当日は、漁業関係者や関係団体、行政、企業、地域住民から、およそ 300 人の参加協力により、海浜清掃が行われ、木くずや空き缶、ペットボトル等のごみが回収された。



活動の様子

【主な予定】

○7 月 25 日(金)

鳥羽みなとまつり(鳥羽)

○8 月 5 日(火)

三重県黒のり漁期前研修会(松阪)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。